

# CAMPUS 八戸学院

vol.55

新型コロナウイルスに負けない!!

～学生や生徒が安心して学校生活を送れるように～

人生100年時代における保険制度の  
在り方に関する研究



## 八戸学院大学短期大学部 八戸小唄流し踊り発表会開催



短期大学部では、7月に市中心街で開かれる「八戸小唄流し踊り」に平成20年から毎年参加しており、地元  
の伝統を学ぶ機会として大切な行事となっています。

今年は、新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、幼児保育学科1年生の学生たちは、小唄踊りの  
練習を続け、練習の集大成として学内で発表会を行いました。

当日は、美術の時間に作成した26体の七夕飾り吹き流しや提灯が飾られた学生ホールで、90名が滑らかな踊  
りを披露しました。終盤には、見学に来ていた2年生も参加し大いに盛り上がりました。

今年も「八戸流し踊り」から学生は多くのことを学びました。



### 七夕飾り吹き流し

今年も八戸七夕祭りに大型の吹き流しを制作・出展予定でしたが、  
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、イベントは中止になっ  
てしまいました。他にも短期大学部で行う予定の「砂浜彫刻」や「宿  
泊研修」など様々な楽しい行事が中止になる中、少しでも楽しい雰  
囲気をみんなで作ろうと、普段学生たちが昼食をとる学生ホールに  
七夕飾り吹き流しを展示しました。

## CONTENTS

- 3 八戸小唄流し踊り発表会開催
- 4 新型コロナウイルス感染防止プロジェクトチーム(PJT)
- 6 新型コロナウイルスに負けない！！
- 8 新型コロナウイルス感染症対策  
物資等の寄贈
- 9 八戸学院国際交流支援室  
人間到处有花香 ～花の香りに満ちた世界～
- 10 人生100年時代における保険制度の  
在り方に関する研究
- 12 ステラが行く／ステラ・フォーカス
- 14 八戸学院 TOPICS
- 16 東北多文化アカデミーと連携・協力協定を締結
- 17 同窓生の広場
- 18 理事長散策

# CAMPUS 八戸学院

vol.55



### 表紙

それぞれの目標に向けて、日々勉学に  
励む留学生9名と、彼らを支える国際  
交流支援室のスタッフ。

### 建学の精神 「神を敬し、人を愛する」

カトリックの精神に則る道徳教育を施し、  
高尚なる人格の完成を期し、現代社  
会が要請する有為の人材を育成すること  
をもって目的とする。(寄附行為 第3条)

- 八戸学院大学  
TEL 0178-25-2711
- 八戸学院大学短期大学部  
TEL 0178-25-4411
- 八戸学院地域連携研究センター  
TEL 0178-25-2789
- 八戸学院図書館  
TEL 0178-30-1695
- 八戸学院光星高等学校  
TEL 0178-33-4151
- 八戸学院光星高等学校専攻科  
TEL 0178-25-6322
- 八戸学院野辺地西高等学校  
TEL 0175-64-4166
- 八戸学院幼稚園  
TEL 0178-34-5765
- 八戸学院聖アンナ幼稚園  
TEL 0178-45-3670
- 八戸学院第二しのめ幼稚園  
TEL 0178-25-2488

<https://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>

## 目指せ！あおもり国スポ



2025年に青森県で開催予定の第  
85回国民スポーツ大会に向け、県内40  
団体が強化拠点校に選ばれ、八戸学院  
大学スピードスケート部・女子サッカー  
部、光星高校レスリング部に指定証が  
交付されました。今後、競技力向上に  
向けた強化練習や合宿、トップレベル  
チームの招聘に対し補助金が交付され  
ます。

# 新型コロナウイルス感染防止プロジェクトチーム(PJT)

本学では、医師で学校医・産業医を務める教員および、看護師経験のある看護学科長からなる新型コロナウイルス感染防止プロジェクトチーム(PJT)を中心に対策が立てられました。

PJTメンバー		
八戸学院大学 健康医療学部		
看護学科教授 高橋 正知(産業医)	看護学科教授 高橋 雪子(看護学科長)	人間健康学科教授 遠藤 守人(学校医)

**3/24 常任理事会にてPJT立ち上げ、対策の確認**  
 ・学位記授与式、入学式の中止  
 ・各種講座やオープンキャンパス等の中止  
 ・在学生向け「新型コロナウイルスへの対応について」等  
 ・新型コロナウイルスによる肺炎の感染拡大に関する注意喚起について

**3/25 PJT会議**  
 ・新型コロナウイルス感染への対応について提言  
 ・大学オリエンテーション日程確認、講義開始延期(4/14～)提案  
 ・短期大学部オリエンテーションおよび講義日程についての対応協議

**3/26～29**  
 ・部活指導者への注意事項説明会  
 ・PJT打ち合わせ(資料配布、健康観察の提案)  
 ・光星学院教職員にPJT提言について資料提供  
 ・学生に対して「新型コロナウイルス感染への対応について」発信依頼  
 ・八戸市での新たな感染確認に伴い、対応協議

**3/30～ PJTと事務部門責任者との緊急対策会議／学長、学部長・学科長会議**  
 ・新型コロナウイルスの感染拡大に関する注意喚起について  
 ・大学、短期大学部の講義開始日程確認  
 ・新入生向け感染対策周知のための文書郵送依頼  
 ・就職活動に関する学生へのアナウンスおよび届け出についての検討・確定

**4/3 PJT会議(八戸市の感染者確認を受けて)**  
 ・該当医療機関受診者の確認依頼および受診者が確認された場合の自宅待機指示  
 ・緊急提言についての意見交換～講義開始について、部活動について  
 ・県外の非常勤講師依頼中止の要請  
 ・光星高校野球部新入生入寮について相談・対応

**4/8 PJT会議**  
 ・見解・提言について意見交換



国内で初の感染確認 1/16

政府が新型コロナウイルス感染症対策の基本方針決定 2/25

安倍首相、全国の小中高・特別支援学校に3/2から春休みまでの休校を要請 2/27

新型コロナウイルス政府専門家会議が現状認識を公表 3/9

青森県内感染者確認(八戸市) 3/23

東京都の感染者が1,000人超す 4/5

十和田市感染者確認 4/10



**4/10～11**  
 ・講義開始に向けた消毒液配置・マスク配布についての相談対応  
 ・新型コロナウイルス対応について学生向けアナウンス案確認  
 ・アルバイトについて学生からの問い合わせに対する考え方確認  
 ・スクールバスにおける感染防止対策について  
 ・県外からの非常勤講師への対応について確認  
 ・トレーニングルーム使用についての意見  
 ・上十三地区でのクラスター発生に伴う講義開始延期についての意見交換

**4/13 臨時常任理事会～PJTとして上十三地区でのクラスター発生に伴うリスク拡大との認識**  
 ・大学・短大の休校に伴う打ち合わせ  
 ・休校中の部活動への方針についてPJT提言  
 ・体育館使用についての意見

**4/14 臨時休校実施**

**4/14～20**  
 ・休校中の図書館の方針について確認  
 ・PJTとして部活動(自主練習含め)中止を提言  
 ・相談のあった強化指定部(寮、下宿)環境の確認  
 ・県外からの非常勤講師について春学期の依頼中止を提言  
 ・大学学部長・学科長会議

**5/6～9**  
 ・講義開始に向けて、新型コロナウイルス対応PJTとしての提言  
 ・感染防止対策会議におけるPJTとしての提言説明  
 ・部活動自粛の段階的解除について相談  
 ・実技系科目についての感染防止対策の確認

**5/11 臨時休校解除<講義開始>**  
 ・講義開始に伴い、部活動自粛の一部解除について確認  
 ・大学HP上の「[新型コロナウイルス]に関連する情報について」の見直し

**5/14～22**  
 ・部活動自粛の段階的解除についてスポーツ局会議での情報共有  
 ・青森県の緊急事態宣言解除に伴う、PJT提言の見直し  
 ・新型コロナウイルス対応PJTとしての提言  
 ・来学・来館(図書館)者についての対応方針確認  
 ・部活動自粛の段階的解除についてスポーツ局、強化指定部指導者との意見交換

**5/26～**  
 ・強化指定部以外のクラブ・サークル活動再開に向けた方針確認  
 ・5/25全地域の緊急事態制限解除を受けて、PJT提言(見直し)  
 ・マスク着用について、熱中症予防の観点からの注意喚起  
 ・部活動の段階的制限解除

※その他、体調不良者や県外移動者に関する相談について適宜対応

日本国内感染者711人(1日で最も多い) 4/11



「緊急事態宣言」対象地域を全国に拡大 4/16

「緊急事態宣言」5/31まで延長決定 5/4

東京や大阪など8つの都道府県を除く、39県で緊急事態宣言を解除 5/14

全面解除後の「段階的な緩和」政府の方針 5/25

## 自分の行動が見直される新型コロナ感染

新型コロナ感染が持続している状況の中、自分の行動が他人にどのような影響を与えるかを深く考えることなく生活している人の如何に多いかを実感しています。新型コロナは単なる風邪ではなく、重症化しやすく対処しにくい疾患であり、従来の生活スタイルから新しい生活スタイルへの移行が求められています。しかし、単に密になるだけで感染するわけではなく、ウイルスを保持している人がいる所で密になると感染する可能性が高くなります。産業医の立場から学院の学生、教職員を守るために種々の提言を行っていますが、感染はまだまだ持続する様相ですので、ワクチンが使用可能になるまでは引き続き状況に応じた適切かつ迅速な提言を行うのがわれわれPJTの役割と考えています。



産業医 高橋 正知  
八戸学院大学 健康医療学部 看護学科教授

## Withコロナの時代、確実な情報を得て「正しく恐れる」行動が求められます！！

大学・短期大学部の学校医としてプロジェクトチームに加わり、未知なる新型コロナウイルスの脅威にどのように対応すべきかについてチームメンバーと随時模索しています。時々刻々変化する全国各地や地域の感染状況を確実に把握して情報共有するとともに、文部科学省・厚生労働省からの通知や専門家会議の見解等に即した対応策を提言することに努めて来ました。多くの不安や苛立ちの中で、水野・杉山両学長のリーダーシップのもと法人内の各施設と連携しながら学生・教職員が一体となって真摯に感染防止・感染拡大防止に取り組んでいると感じています。当面はwithコロナの状況が予想されますので、これからも安全安心な環境を確保して質を維持した教育活動が実践できるように尽力したいと思います。



学校医 遠藤 守人  
八戸学院大学 健康医療学部 学部長・教授

### ■WEBを活用した就職活動

キャリア支援課に設置してあるPCを使用し、WEBでの就職活動を個別にサポートしている。



### ■WEB就活対策セミナー

大学のキャリア支援課では、就活生を対象に「WEB就活対策セミナー」を開催した。新型コロナウイルスの影響で思うように就職活動ができていない学生もあり、「WEB面接とは?」「WEB面接の方法やマナー」など、不安を感じていることを解消した。

セミナー開催後は、「WEB説明会」や「WEB面接」を行うなど、積極的に活動する学生の姿が見られるようになった。

### ■登校

校舎や教室への入室時は、手洗い・手指消毒を行い、マスクを着用させることで咳エチケットを厳守している。



生徒の登校時の様子(野辺地西高校)

### ■窓口対応

学生窓口には、飛沫感染などを防止するための透明ビニールシートが設置された。また、順番待ちの列では間隔を開けて並び一定の距離を保つよう指導した。



窓口対応の様子(大学)

### ■部活動

活動を中止していた部活動は、分散練習や時差練習などの対策を講じて段階的に活動が再開された。

活動再開にあたり、各部では体調の自己確認、手指消毒、水分補給のためのマイボトル持参等、感染拡大防止に向けた活動方法が話し合われた。

また、寮内では集団感染を発生させないよう、引き続き健康管理を徹底し、感染防止に向けた取り組みが行われている。

# 新型コロナウイルスに 負けない!!

～学生や生徒が安心して学校生活を送れるように～

### ■講義

座席は指定した場所(空間を設けた場所)に着席するよう指導している。指定がない場合は1席空けて空間を確保させるとともに、1時間に1回以上の換気を行っている。

会話は(マスク着用の上)身体的距離をとって、必要最小限にするよう指導をした。

体調不良や発熱がある場合は登校しないことを徹底させ、課題学習等での対応を行っている。

※現在は、オンライン講義の実施について準備が進められている。

### ■学内実習(母性看護学)を通して 小泉 理奈(大学看護学科4年)



学内実習では、一人の女性が妊娠期を経て出産し、母親になっていく過程を学生が演じることで、身体的負担や心理的な変化、母親役割獲得の難しさなどを体験し、寄り添ったケアを考え実施することができた。実際に病院で命の誕生の瞬間に立ち会いたかったが、学内では教員がつきっきりで直接指導してくださったため、確かな技術はもちろん幅広い視野を持ち看護を展開する能力を身につけることができ、とても充実した2週間を過ごすことができたと感じている。

### ■実習(大学看護学科) 高橋 雪子(八戸学院大学 看護学科長)

臨地実習は本来、講義の一環であり、3・4年生は各専門領域において計画されている。臨地実習ができないという状況は看護教育の歴史上で今回が初めてである。

大学看護学科においては、臨地実習を中止する決断を下すまで悩み苦しんだが、学生の安全を最優先し中止を決定した。決定と同時に学内実習の準備が急ピッチに行われ、学内実習の内容はもちろん、実習室利用のスケジュール、教室の確保、学生への周知など、教員の動きは目を見張るほど素晴らしかった。

しかし、学内実習を臨地実習に近づけることはできても、決してイコールにはならない。教員たちは、実際を通じて内容の変更や教材の工夫を講じ、学生の学修状況を評価しながら改善の努力を継続している。

八戸学院国際交流支援室  
**人間到处有花香**  
 ～花の香りに満ちた世界～



中国駐札幌総領事館から送られた健康包と学生のお礼のメッセージが書かれたうちわを手に

2020年に入るやいなや、平和な生活が猛威を振るう新型コロナウイルスによって乱された。世界のどこでも、マスクや消毒液などの日用品が入手困難な状態になった。本学にいる留学生も例外ではなかった。

このような状況の中、八戸学院は留学生やその家族、連携している学校が困難を乗り越えられるように、備蓄していたマスクを無償で提供した。このことは、彼らに喜ばれ、高く評価された。

5月11日、八戸学院大学の中国留学生の手に中国駐札幌総領事館から「健康包」が届き、マスク、消毒液、さらには新型コロナウイルスに効果があると見られる漢方薬が入っていた。学生たちは、この『及时雨（救いの雨）』を手に、どのような思いを抱いたのであろうか。

〃慈母手中线，游子身上衣（優しいお母さんは手中に糸を操って、旅に出る子が着る衣服を縫って）  
 〃子供のことを心配する母親の大きな慈愛を表す中国の唐詩の一句で、留学生たちが中国駐札幌総領事館に送った感謝状の一句でもある。間もなくして、中国駐札幌総領事館から感謝状のお礼の連絡が入った。祖国から離れた土地で学ぶ我が子をどんなに心配していることだろう。



本学留学生と八戸工業大学の留学生との餃子パーティー（2019年12月開催）の様子

〃人間到处有花香〃 祖国から離れていても、祖国の子、またわれわれ八戸学院の子として、皆にいっぱい愛され、第二の故郷八戸の大地で元気で、幸せに生活してほしい。

八戸学院国際交流支援室  
 中国センター長 楊麗栄

新型コロナウイルス感染症対策  
**物資等の寄贈**

新型コロナウイルス感染症の流行で、マスク等が不足し入手が困難な状況の中、複数の企業、団体、保護者の皆様から寄贈いただきました。皆様のご厚意に感謝申し上げますとともに、学院内で大切に使用させていただきます。ありがとうございます。

次の方々より寄贈いただきました。

- ・株式会社ジグソー 様
- ・株式会社GANBAX・BS 様
- ・LUCKY 様
- ・株式会社タムラ 様
- ・野辺地町役場 様
- ・八戸学院大学同窓会 様
- ・大学・高校・幼稚園の保護者の皆様  
 (7月20日現在/順不同)



～幼稚園の保護者より～  
 八戸学院3幼稚園に、お菓子の詰め合わせをいただきました。



～皆様からいただいたマスク等～  
 マスク、マスク用インナーシート、消毒液等、たくさんの物資をいただきました。

生徒や教職員による寄贈



～八戸学院光星高等学校 女子バスケットボール部～  
 医療従事者の皆さんへ、水彩塗り絵で感謝とエールを贈りました。



～八戸学院光星高等学校 保育福祉科 教職員～  
 八戸市老人クラブ連合会へ、手作り布マスクを寄贈しました。

# 人生100年時代における保険制度の在り方に関する研究



八戸学院大学  
地域経営学部 講師  
崔 桓 碩

早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程  
単位取得満期退学/修士(商学)(早稲田大学)  
早稲田大学商学部助手を経て、2015年4月から  
八戸学院大学地域経営学部勤務

2017年4月より現職

研究テーマ 保険産業に対する政策分析  
保険会社の海外進出および国際規制  
担当科目 金融入門、金融経済論、保険論、  
韓国文化、地域経営学特殊講義Ⅲ、  
キャリアデザイン、基礎演習、  
研究演習など

## 研究活動について

私たちの日常生活の身近にある保険をテーマとし、保険制度の在り方について研究をしています。具体的には、保険産業に対する政策分析、保険会社の海外進出および国際規制などの研究を行っています。

保険とは、特定の偶然事故に関連する経済上の不安定を除去・軽減するために、多数の個別経済主体が結合し、合理的計算にもとづく拠出によって、計画的に共通準備財産を形成する経済制度です。すなわち、リスク処理策の1つとしての保険制度により、リスクは社会化され、独自で負担しなければならぬリスクを保険会社に転嫁することができます。

このように社会経済の発展にも重要な役割を担っている保険制度について十分に理解する必要があるため、保険制度の適切な運営は社会全体からみても重要で、保険制度の担い手においては、適正かつ効率的な制度運営が求められます。たとえば、民間の保険会社等においては、競争を通じた利便性の提供と効率的な会社運営が期待されます。そして、消費者においては、保険に対するリテラシーを高めて、自分の生活環境に適切な保険の活用が求められます。また、監督当局には、保険が健全な制度として運営され、消費者保護が図られるようにする必要があります。これらの点に注意しながら研究を進めています。

次は、最近の研究について紹介したいと思います。

最近、掲載された論文のタイトルは「損害保険大手グループにおける海外M&Aの現状と海外M&Aが企業価値に与える影響に関する考察」です。近年、保険会社は国内市場が成熟段階に入っているため、新しい収益を確保するという事で海外進出を行っています。その中でも損害保険大手3グループ(東京海上ホールディングス、MS&ADホールディングス、SOMPOホールディングス)は海外M&Aを積極的に進めています。

海外M&Aのメリットは、事業ポートフォリオの分散、利益の増加により持続可能な成長を達成できることです。

しかし、被買収企業の業績が悪化したら、買収プレミアムを超えるシナジー効果が実現できなかったりする場合に、買収時に発生したのれんを損失計上しなければならぬため、買収企業の財務リスクを高めるデメリットも存在します。

この論文では、まず、損害保険大手3グループにおける海外M&Aの現状を把握しつつ、これらグループが行った海外M&Aに対し市場がどのように評価したかについて、イベント・スタディ手法を用いてAR(異常収益率)とCAR(累積異常収益率)を分析したものです。

研究結果として、損害保険会社大手3グループは、いずれも先進国保険市場での大型海外M&Aを積極的に進めることにより、グループ全体に占める海外保険事業の利益を増加させています。一方で、海外M&Aの増加により、償却しなければならぬのれんも拡大しています。買収プレミアムを超えるシナジー効果が期待できなければ、のれんの損失計上のような財務リスクが高まる結果をもたらします。海外M&Aによるのれんの発生は企業経営に様々な影響を与えており、日本郵政のように一度減損を計上することになると経営状況が改善しても取り戻すことができません。従って、多額ののれんを適切に管理する必要があります。

次に、海外M&Aの4件に対する市場評価については、東京海上ホール

ディングスおよびMS&ADホールディングスが行った3件については、ARおよびCARがマイナスの傾向をみせ、SOMPOホールディングスが行った1件については、ARおよびCARがプラスの傾向をみせています。イベント・スタディ手法の定義に基づくくと、損害保険大手3グループにおける海外M&Aの発表という情報の発信が、東京海上ホールディングスおよびMS&ADホールディングスの市場価値にはマイナスの影響を、SOMPOホールディングスの市場価値にはプラスの影響を与えたといえます。

そして、現在は本学イノベーションプログラム(基金)研究等補助金を受け「インシユアテックが消費者の利便性に与える影響分析」というテーマで研究を進めています。最近、革新的技術を用いた金融サービスの創造や見直しを意味する「フィンテック」が銀行業務を中心に注目を集めるようになりました。保険分野では、保険(Insurance)と技術(Technology)を合わせた造語である「インシユアテック(InsurTech)」への関心が高まってきました。

インシユアテックの領域としては、IoT(モノのインターネット)、AI(人工知能)、ビッグデータ、ブロックチェーン、ドローン等、様々な技術が挙げられ、募集、引受、保険金支払等の保険業務における活用が図られて

います。具体的には、保険会社が担当する保険の引受け、保険料の運用、保険金の支払い、保険商品の販売といった業務にテクノロジーを活用して、仕事の効率や収益性を高めたり、今までにないサービスを生み出したりすることが期待できます。

この研究では、インシユアテックがもっている特徴を正確に把握し、既存の生命保険市場のビジネスモデルにどのような変化をもたらしているのかを調べたうえで、消費者の立場に立って、消費者の利便性の向上にどのように寄与するのかを中心に分析したいと考えています。

## 学生の金融リテラシーの向上 および就活支援としての FP資格取得指導

大学では主として金融に関する講義(金融入門、金融経済論、保険論)を担当しています。金融入門の授業では、金融の定義から始め、ライフプランニング、金融資産運用、リスクマネジメントなどの内容について説明しています。金融経済論の授業では、金融に関するマクロ的な視点に立ち、金融市場と金融商品、金融政策、経済主体別の金融行動などについて説明しています。保険論の授業では、公保険である社会保険と私保険である民間保険との違いから始め、保険の特徴と仕組みについて説明しています。これらの金融に関する講義を通じて学生の金融リテラ

シーの向上のために励んでいます。その他に、学生が授業で学んだ知識を生かし、金融関連業界への就職を支援する意味で、金融に関連する資格であるFP(ファイナンシャル・プランナー)資格の取得も積極的に指導しています。研究演習(ゼミ)の学生にはすでにFP3級試験に合格し、FP2級への合格を目指して努力している学生もいます。一人でも多くの学生がFP資格を取得し、就活に役立つよう頑張りたいと思います。

## 韓国語および韓国文化の紹介

2020年4月からは八戸学院光星高校との高大連携授業として「韓国文化」の授業を担当しています。この授業を通じて、在学生および高校生のみならず、韓国語の基礎的な学習と韓国の地理的特徴、衣・食・住文化、歴史、芸能などのような韓国文化への理解を深めていただきたいと思います。さらには、韓国文化への理解を始め、異文化を理解するための土台を身につけていただきたいと思います。

そして、学外では市民向けに「韓国語教室」も担当しています。2015年10月からスタートしており、現在は入門、初級①、初級②、中級の4つのクラスをもっています。受講生の韓国語能力の向上ならびに韓国文化への理解を深めるために日々頑張っています。

## 八戸学院幼稚園

### 「えほん読むの だーいすき！」

子どもたちは絵本が大好きです。毎日多くの子がクラスの本棚や廊下の絵本コーナーから興味を引かれる一冊を手に取り、絵を眺めたり、文字を拾い読みしたりしています。中にはスラスラと読み始める年長児も見られます。

園の玄関ポーチに小さな貸し出し絵本コーナーが設けてあります。朝、お子さんを送ってきた後に、一人ゆっくりと絵本を眺めるお母さんもいますし、お迎えに来た

際にお子さんと二人で「どれにする？」と会話をしながらお気に入りの一冊を探す親子もいます。昨年度末で退職した前園長からの寄贈絵本で文庫も設けました。



## 八戸学院3幼稚園

### 園長メッセージ



八戸学院幼稚園  
園長  
内山 伸治

今年度4月から八戸学院幼稚園園長を拝命しました内山伸治です。子どもたちのあけない笑顔と楽しいおしゃべりに、毎日たくさん元氣と勇氣をもらっています。私が日々心がけていることは、子ども一人ひとりを「温かなまなざし」で見つめることです。子どもの健やかな成長にとって大切なのは、自己肯定感を高めることだと思います。他者と比べて優れているとか、何かよくできるとかではなく、自分の存在やありのままの自分が認められている実感をもつことです。それが、人を愛し、自分の力を信じ、伸び伸びと育っていく基盤になると思っています。

幼稚園に携わるようになって今年で10年目となります。生涯にわたる基礎を培う幼児教育に関わる責任の大きさと、その奥深さを痛感する毎日ではありますが、子どもたちと共に過ごしてきた日々は私にとりまして「最高に幸せな時間であった」と言っても過言ではありません。

「子どもたちの言葉が、きれいで優しい」第二しののめ幼稚園に着任して最初に感じたことです。子どもたちの言葉を育んでいく、ご家庭と園の毎日が目に浮かび、責任の重さを思うと共に遅延に感謝しました。子どもたちがもっている、素晴らしい感性と言語感覚を大切にしながら、朗読で、「子どもの言葉を育てる」お手伝いをしたいと考えております。言葉を理解して伝える力と、物事を見て考え、想像できる力を養い伸ばすことが目標です。また、朗読を、読書の楽しさに向かう動機にしたいとも考えております。



八戸学院聖アンナ幼稚園  
園長  
山西 幸子



八戸学院第二しののめ幼稚園  
園長  
茂木 典子

## 八戸学院聖アンナ幼稚園

### 園外保育～館鼻公園に行ったよ！～

待ちに待った園外保育の日。リュックに手作りのお弁当と水筒を入れて、元気にバスに乗り込みました。館鼻公園に着くと、目の前には長い夢の大橋と青々とした八戸の海が広がっていました。「大き～い！」「きれいだね」と感動する子供たち。そのあとは、アジサイの蕾や綺麗に咲くツツジ、大きな桜の標本木、足元を歩く虫たちに目を輝かせながら散策を楽しみました。たくさん遊んでお腹が空いた頃、大きなシートを広げてみんなでお弁当を食べました。大勢で食べるお弁当は一段と美味しかったようです。5歳児、

4歳児のお友だちは、最後に高くそびえ立つグレットタワーに登りました。「たか～い！」「お家が小さく見えるね」と思い思いに話し、喜んでいました。帰りのバスでは、「楽しかった！」と満足そうな顔でいっぱいでした。また幼稚園のみんな遊びに行こうね！



## 八戸学院第二しののめ幼稚園

### 甘くておいしいさくらんぼ

子どもたちが楽しみにしていたさくらんぼ狩りを行いました。バスの中でも賑やかな声が響き、農園に到着すると大歓声があがりました。「このさくらんぼ真っ赤だよ、甘くておいしいね」と友達同士で会話をしながら、いろいろな種類のさくらんぼの色や形、甘さの違いを楽しむことができました。紙コップに種を入れることでどのくらい食べたのか一目で分かり、「たくさん食べたよ」と得意気に見せてくれました。

昼食はお父さん、お母さんが作ってくれたお弁当

です。園庭で輪になり、みんなでおいしくいただきました。

自然を楽しむ体験を通し、感動する心、感謝の気持ちを大切に園生活を過ごせる子どもたちを育てていきたいと思えます。



女子アスリート躍動！

**光星高** 女子サッカー一部初出場・初優勝 ～県高校総体代替大会～

県高校総体代替大会となる青森県高校夏季サッカー競技大会で初出場・初優勝を飾りました。

今回の高校総体代替大会は私たち女子サッカー部にとって、とても特別な大会になりました。高校総体青森県 10 連覇中の千葉学園高等学校を決勝で破り初出場初優勝できたのはものすごく嬉しいです。しかし大会を通して最後まで走り抜くフィジカルや、失点してもぶれないメンタル、柔軟に対応する個人戦術など、全国大会を見据えたときに多くの課題が見つかりました。

これからはこの課題を念頭に置き、徹底的に練習あるのみです。もっともっと上を目指し自分達の最終的な目標である全国大会出場を実現できるように、感謝の気持ちを常に忘れず頑張っていきたいです。 宮野日和（3年）



**大学** 第27回東北女子フットサル選手権大会出場へ

THFA 第 27 回東北女子フットサル選手権大会 兼 JFA 第 17 回全日本女子フットサル選手権大会青森大会で準優勝し、8 月に山形県で開催される東北大会の出場を決めました。東北大会出場は昨年に続き 2 年連続となります。

昨年度の全日本女子フットサル選手権で全国 3 位となり、臨んだ今大会は「東北勢初の全国 3 位」というプレッシャーのある中での出場でした。初戦から思うような試合運びが出来ず、追われる立場の難しさを実感しました。

東北大会では、ディフェンディングチャンピオンとして追われる立場となります。しっかりとチャンスをもたせ、隙のないような試合運びをして優勝したいと思います。 渋谷帆香(ビジネス学科 3年)



**大学** JBA公認A級審判最年少デビュー ～さらなる高みを目指して～

笹井彪哉さん（人間健康学科 2 年）が日本バスケットボール協会公認の A 級審判の資格を取得しました。国内の A 級審判員の中で最年少となります。今後、プロの試合を務めることができる S 級審判の資格取得にも意欲を見せています。



2020 年度から JBA（日本バスケットボール協会）公認の A 級審判員に現役審判員中最年少で昇格することができました。A 級に昇格してからの最初の大会である高校総体に向けて、今までと変わることなく、謙虚に貪欲に励んでいきたいと思っています。また、S 級取得に向け、コンディション作りを怠ることなく、最高のパフォーマンスを維持できるように日々トレーニングをしていきたいです。

大学では教職科目を履修しており、卒業後は高等学校の保健体育の教員になるのが夢です。運動が苦手な子たちでも楽しめるような授業を展開できる教員になりたいと考えております。また、青森県のバスケットボールの発展のために審判員としての活動も続け、B league やトップリーグの試合でもレフリングができるよう、また、最終的には国際審判員になりたいと考えています。

2025 年には、地元青森県で国民スポーツ大会があるので、その大会の決勝戦をレフリングできるようにさらに向上心を持って今後も頑張っていきたいと思っています。



**大学** 八食センターの魅力発信

八戸学院大学の学生は、今年開業 40 周年を迎える「八食センター」の記念事業に取り組んでいます。

同大学地域経営学部の学生 15 名は、館内のスポットや人物、商品から 40 の魅力を選出し、40 選マップを作成する「八食 40 選」と、地元の食材や調味料を活かした一口サイズのピンチョス（おつまみ）を考える「8 学 marche(マルシェ)」に挑戦。この企画は、創業祭の目玉となる企画で、今後、学生はフィールドワークを通じて八食センターの新たな価値の創出を目指します。



**短大** ハチノヘブルー2020

現代芸術教室「アートイズ」の代表を務める佐貫准教授を中心に、コロナ禍において命と生活を守るために働くエッセンシャルワーカーへ感謝の気持ちを表そうと、建設中の八戸市美術館の仮囲いに「ハチノヘブルー」をテーマに同短期大学部の学生や工事関係者により、「八戸で見つけた青」を切り取った写真 100 枚が展示されました。



**大学** スポーツ教育の充実へ ～八戸ダイムと連携協力協定～ [5/29]

八戸学院大学と 3 人制プロバスケットボールチームの八戸 D I M E で連携協力協定を締結しました。今後、両者が持つ施設やノウハウを生かし、地域のジュニア世代や学生の競技レベルの向上やスポーツ教育の啓発に取り組めます。

調印式で八木代表取締役兼オーナーは「八学大の運動部の活躍は目覚ましく、心強い。スポーツを通じて地域との連携を深めていきたい」、水野学長は「子どもたちの学びの場を提供し、スポーツ選手の育成に貢献したい」と述べました。



**大学** 看護学科宣誓式 [6/18]

健康医療学部看護学科では第 4 回宣誓式を開催しました。今年は、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により開催規模が縮小となりましたが、看護学科 2 年生が 54 人の志のもとに宣誓の詞を力強く語り、看護の道を歩み続ける決意を新たにしました。笑顔絶やさず相手の心に寄り添うこと、多くの知識と技術を身につけ、仲間とともに高め合うことなどを誓いました。



学校法人光星学院  
**東北多文化アカデミーと連携・協力協定を締結**  
 ～国際教育事業のさらなる充実を目指して～



東北多文化アカデミー 押谷祐子 代表理事 (右)

留学生の日本語教育等を手掛ける一般財団法人東北多文化アカデミー（仙台市）と連携・協力協定を締結しました。この協定は、留学生を対象とした日本語及び日本の文化教育、就職支援事業についての連携・協力を図ることを目的とし、当面は、同アカデミーで日本語を習得した留学生を短期大学部介護福祉科で受け入れ、介護資格取得を目指します。

法務省告示の日本語学校を設置し、外国人の日本語教育事業、文化交流事業、就職支援事業等を行っており、安心して安全な多文化共生社会の実現を目指している。この度の連携協定をきっかけに、来年度以降、八戸学院大学のキャンパスに希望に輝く留学生であふれることを祈っている。」



締結式終了後には、同アカデミーによる外国人介護人材育成に関する説明会が開催され、介護施設事業者14名が参加しました。

法官理事長のコメント  
 「法人60周年を機に国際教育事業の積極的活動を掲げ、現在、フィリピン・中国・モンゴルから留学生を受け入れている。この度の協定締結により、これまで以上に多様な国からの留学生受入が可能となり、地域社会の発展に寄与できると考えている。」  
 押谷代表理事のコメント  
 「多文化共生を理念に2010年に財団を設立した。2016年には、

《地元へ恩返しを》



私は光星高校の卒業です。当時は「これからパソコンの時代が来る」と思い、情報経理科を専攻しました。県内の商業高校が2人で1台のパソコンを使用している中、光星高校は1人1台。教育環境は素晴らしい高校だと思いました。

中学時代、夏は野球、冬はスケートをしていたため野球部からの誘いがありましたが、オリンピックを夢見ながらスケート部に入部。当時のスケート部は高校総体で3連覇、また金濱康光先輩がカルガリーオリンピックに出場するなど、スケート部は黄金期でした。

高校入学時に父親と約束した、自転車通学(自宅から高校まで約25kmの道のり)



六戸町役場 企画財政課  
 課長補佐 佐藤 一也 氏  
 光星学院高等学校  
 (現八戸学院光星高等学校)  
 情報処理科 昭和63年3月卒業

スケート部のOBとして、八戸学院大学・光星高校スピードスケート部に対し飲料水の差入れをするなど、活動を支援している。  
 ★後輩に一言：「常にベストを！！」

合3位という結果を残すことができました。その他、15年前から六戸町で小学生・中学生にソフトボールを指導し、県代表で東北大会・東日本大会・全国大会にも出場することができました。同時に指導者育成を行い、2年前に後輩へバトンタッチしました。  
 現在は、六戸町役場の企画財政課に所属し、町の財政健全のために頑張っています。また、町消防団に入団して地域の安全を守りつつ、これからも地元へ恩返しのできるよう日々頑張りたいと思います。

を3年間続けて体を鍛えましたが、3年生の夏に腰を痛め練習が思うようにならず、スポーツトレーナーを目指して仙台大学体育学部に進学しました。  
 大学では同級生にボブスレーのコンテストを受けましたらと誘われ、練習のつもりで試験を受けてみたところ、全日本Jr選手に選ばれました。しかし、これまで続けてきたスケート一本で行くことに決め、ボブスレーを断り、スケート部の練習に励みました。その結果、2年生で全日本インカレに出場し500mで8位に入賞。3年生の時には八戸市の長根リンクで全日本インカレが開催され、部員が私1人だったこともあり、陸上

部・ボブスレー部から選手を借りて出場しました。2部ではありましたが2kmリレーで優勝することができました。また、出場選手4人全員が入賞するなど団体でも3位になりました。今思えば、ボブスレーでオリンピックも悪くなかったかなと思います。私の地元大会で出場した2kmリレーでの優勝が何よりも嬉しかった思い出です。  
 大学4年の就活では、実業団からコーチの誘いもあったのですが、地元に戻り母校の指導者になること決意。地元六戸町役場に勤務しながら、六戸中学校スケート部のコーチをしました。同年の県中体連では、女子が総合優勝、男子は総





法 官 新 一  
Shinichi Hogan

# 新しい時代の到来 ～魅力ある学校の創生に向けて～

## コロナ禍

年末、中国武漢で発生したコロナウイルス感染症（COVID-19）は、世界的な規模の禍となつて私達の生活や教育活動にも大きな影響を及ぼしている。当初は他国のことと思いつつも注視していたが、国境を超えて我が国にも禍は飛び火し、今年の1月末から国を挙げて感染防止に全力をあげなければならぬ状況になっている。地方においては大都市圏を中心とした状況に比べて多少楽観的な受け取り方もあったが、3月になって八戸市で7人の感染者が確認されたことにより、私達にとって他人事ではなくなった。現在効果的なワクチンの開発も遅れていて終息の先が見えない状況になっている。

時、学校は年度末、年度始めという一年で一番の繁忙期であり、入学試験に始まり、卒業式や入学式という学生・生徒・園児にとっては、最も記念とすべき行事が縮小や中止になった。社会活動の自粛が叫ばれる中であって、学校運営における対応は非常に難しく、連日関係者による感染予防と学校の正常化に向けた会議が続くことになった。こうした状況下で本学院においては、医師や看護師の医療の専門の立場である教員からなるコロナウイルス感染防止プロジェクトチームを編成し、専門的な見地から学校における教育活動の行動指針の作成や対応や提言をい



ただくことにした。法人の特性から、幼稚園から大学まで全体に係る提言をいただいている。お陰で、政府や地方自治体で先駆けて対策防止や対応の行動方針を示すことができています。プロジェクトチームの先生方のご尽力に感謝である。

また、年度初めの4月から5月の連休明けまでの学校閉鎖による授業の遅れも、学校再開以降は休校の分を土曜日に振り替えて実施し、授業の確保もできています。今後は本来の教育計画において通常の教育活動が確保されるものと思っています。あわせて、部活動をはじめ課外活動も再開され、キャンパ



コロナ対策を講じて行われた理事長が講師を務めた武道（弓道）の一コマ

スには通常の生活に戻ってきたが、ここに来て政府の緩和策とともに、東京を中心としたコロナウイルス感染者の増加が気にかかる。今後とも油断なく長期に渡っての感染予防を徹底し、安全なキャンパス維持に努めたいと思っ

ている。なお、この度のコロナウイルス禍にあつて、保護者、企業の皆様から学生・生徒・園児および教職員の健康と安全のために、大量の消毒液やマスクを寄贈していただきました。心から御礼を申し上げます。

今、総合企画室においての検討が盛んに行われているが、今月はその検討の事項となっている一端を紹介したい。

まず幼稚園は八戸学院幼稚園の幼保連携型認定こども園に続き、他の2園も新制度に移行した。また、光星高校においては、国際コース、スポーツ

7月16日付のデリー東北新聞に「地方国立大の定員増へ」と題した記事があった。内容は政府が東京一極集中の是正を目指す地方創生に向けた2020年「まち・ひと・しごと創生基本方針」の若者の地元定着を促すため地方国立大学の定員を増やすなどの大学改革に取り組むためである。さらに私立大学も含めた地方大学の魅力向上策を有識者会議で議論するとある。

これに先立ち7月8日付発行の「教育芸術新聞」（全国の私立大学の409校が加盟している私立大学協会の機関紙）に私学高等教育研究所の西井泰彦主幹の同様の論評が載っている。我々地方の私学にとって、とても関心を引くものである。

「まち・ひと・しごと創生基本方針2020」の原案に、地方国立大学の定員を増やすことが指摘されている。この方策案は、新型コロナウイルスの感染拡大で、都市部への人口集中のリスクを減少することの認識が広がってきたことを理由に、「一極集中は正への対策の一つとして提起されたものである。これに対して平成30年に発表された「2040年に向けた高等教育グランドデザイン」では、国立大学の定員規模や地域における高等教育のデザインを描く際は地方の特有の事情から、地域が「地域連携プラットフォーム」を活用しながら検討することと

なっている。大都市の一極集中を避け、地方都市の大学進学者を増やすには、地方に立地している公立又は私立の大学の収容定員も増やすことも検討すべきである。」

掲載内容の抜粋だが、端的に言うところ、一極集中から地方分散型へ転換を図る上で、定員超過している国公立大学の定員増よりも、定員割れを起している私立大学の人的、物的資源の効率的確保や費用対効果を考慮し、民間活力活用という観点から私立大学を支援するほうが良いという提言でもある。我々地方の私立大学を運営するものとしては受け入れやすい提言で、明るい味方である。

こうした動きの中で、将来を考える地方の私立大学としてはやはり今以上の魅力や質の向上を求めていくのは当然のことであり、本学においてもこのことを念頭に置いて将来構想を検討しなければならぬと思っている。言い換えれば、今後地方の私立大学の役割がクローズアップされることを前提に将来構想を練ることが大事になってくる。

法人60周年を機に具体的方針を4つ掲げた。まず教育の質の向上、法人内学校の連携強化、地域との連携強化、国際教育事業の充実である。昨年からはこれにスポーツ関連をプラスした。また遡ること、平成15年度から始まった第一次中期計画は「学院の

建学の精神や教育理念の確認、大学の学部増、高校の校舎リニューアル、幼稚園の統合と園舎新築など」少子化の中にあつて、関係者の理解や協力を得て進めた事業であった。以来、10年以上を経過して、大学には健康・医療という学問領域も定着し、女子学生の確保ははじめ一定の評価を得ている。短大においては、地域の要請を受け、質の高い保育士や介護士の人材育成に努めている。高校においては、文武両道を掲げた教育の成果を上げている。幼稚園においては統合後3園の新たな園の運営経営を目指している。このように、各学校においてはそれぞれに課題を捉え解決にあたって様々な施策を展開してきたが、令和という時代を迎え、社会の状況の変化とともに、要請の変化と多様性を感じている。

令和の時代を新しい時代の到来と考え、法人内の各学校のより一層の充実と魅力ある学校の創生に向けて、法人の組織に設置されている「総合企画室」に新立体的学院構想（第二次中期構想）の策定を依頼した。



令和2年度辞令交付式（4/1）



## 八戸学院大学短期大学部 陽だまりベンチ



作業を行った池田准教授と学生

平成27年12月に竣工した八戸学院大学短期大学部幼児保育学科棟の中庭には、後援会より寄贈された記念樹とベンチがあり、学生たちの憩いの場として活用されています。木のぬくもりを感じるこのベンチは、経年劣化に伴い、ひび割れ等が発生したため、幼児保育学科の池田准教授と学生が補修作業を行いました。初めての作業に苦戦しながらも奮闘した学生たちは、きれいに生まれ変わったベンチに腰掛け、陽だまりで過ごす時間を楽しんでいました。



ビスで止めたら完成です。



ビスが乾いたら、木材を番号順に並べます。



電動サンダーで表面を削り、パテでひび割れを補修した後、ビスを塗ります。



ベンチを解体し、たわしで苔を落とします。